

柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期	
子どもの主体性を育みます。	子どもの主体性を育む授業へ転換します。	主体的・対話的で深い学びの教育を進めます。	友達の意見を大事しながら、主体的に課題解決に取り組む子ども	主体的・対話的で深い学びをふまえた校内授業研究を実施します。日々の学習活動で合意形成を図る話し合いの場の充実を図ります。			授業研	理論研		授業研					授業研		継続	継続	
	子どもが参画する学校づくりを行います。	学校行事は子ども主体で行います。	集団への一員であることに対する自覚を高め、人と人とのふれあいやつながりを深める子ども	児童会で学校における諸問題について考え、行事については児童が主体となって話し合い、実施します。	会議 1年生を迎える会	会議 修学旅行		会議		会議	運動会	自然学校	会議	児童会主催の異学年交流会	会議	6年生を送る会	児童が主体の企画・実践・検証を定着させる	児童が主体の企画・実践・検証を定着させる	
	子どもへのエンパワメントを促進します。	CAPの活用と検証を行います。	自分の思いを言葉や態度で表現できる子ども 命の大切さを学ぶ教育につながるゲストティーチャーの授業を行います。	中学年でCAPの授業を行い、自分の心と体を守る予防教育を実施し、成果と課題をつかみます。					授業 検証									継続	継続
		命の大切さを学ぶ教育につながるゲストティーチャーの授業を行います。		助産師やEIDSの専門家など、命に関する講師による児童対象の出前授業を実施します。										授業					継続
チーム学校で取り組みます。	学校の組織対応力を向上させます。	教職員がSOSを出せる教職員集団を作ります。	同僚性を高め、互いに信頼し合える教職員	学年や専科の枠を超えて相談できる場やチームで対応できる体制の充実を図ります。	学年 部会	毎月年間通して実施										継続	継続		
		多職種連携を推進します。	互いの専門性を信頼し、連携できる学校組織	各担当、SC,SSWがそれぞれの専門性を活かし、各ケースに対応したチーム会議を開催します。	ケース 会議	毎月年間通して実施										継続	継続		
	子どもを育む地域や関係機関との連携を行います。	地域ぐるみで子どもを見守ります。	情報を発信し、家庭・地域に開かれた学校	コミュニティ・スクール、青少年育成市民会議等で、学校の様子を説明し、地域で子どもを育むことの協力を求めます。			コミュニ ティ会議	青少年育 成市民会議					コミュニ ティ会議	青少年育 成市民会議		コミュニ ティ会議		継続	継続
		保育所・幼稚園・小中学校の連携を強化します。	中学校区における目指す子ども像の実現に向けた教育の連携を推進する保幼小中学校園所	中学校区の子どもの実態等の情報交換を行い、いじめに対する学校の指導体制・指導内容の充実を図ります。	幼稚園との 連携会議		保幼小中 連携会議					保幼小中 連携会議		保幼小中 連携会議	引継会 中学校教師による 出前授業		継続	継続	
関係機関との連携を図ります。		関係機関と情報を共有し、迅速に対応できる学校組織	学校の各ケースについて、常に家庭児童相談室、青少年センター等と組織的に連携を図ります。	連携													継続	継続	
子どもに対する体罰を根絶します。	体罰を根絶します。	体罰の禁止を徹底します。	子ども一人ひとりの人権を守ることに徹する教職員	体罰・ハラスメントの根絶に向けた事例研修を実施し、教職員の人権意識を高めます。	学校通信 研修			研修					研修				継続	継続	
	あらゆるハラスメントを根絶します。	あらゆるハラスメントを根絶します。			学校通信 研修			研修						研修				継続	継続